



平成31年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成31年1月31日

上場会社名 株式会社 ピエトロ

上場取引所 東

コード番号 2818 URL <https://www.pietro.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 泰行

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理・IR部長 (氏名) 森山 勇二

TEL 092-724-4925

四半期報告書提出予定日 平成31年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	7,465	3.0	481	21.9	479	23.3	287	42.8
30年3月期第3四半期	7,247	2.8	395	0.8	388	2.7	201	5.4

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 291百万円 (43.4%) 30年3月期第3四半期 203百万円 (9.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	47.28	
30年3月期第3四半期	32.15	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第3四半期	8,927	5,311	59.5	874.40
30年3月期	8,979	5,141	57.3	846.40

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 5,311百万円 30年3月期 5,141百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		20.00	20.00
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)				21.00	21.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,120	5.2	620	19.6	600	17.6	350	22.9	57.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期3Q	6,257,230 株	30年3月期	6,257,230 株
期末自己株式数	31年3月期3Q	182,369 株	30年3月期	182,368 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期3Q	6,074,862 株	30年3月期3Q	6,256,701 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用環境に改善が見られ、緩やかな景気回復基調で推移しております。一方で、原材料費や人件費の上昇などの要因、海外経済の不確実性、金融市場の変動の影響など、先行きに留意する必要があります。

食品業界及び外食業界におきましては、消費者の根強い低価格志向などの生活防衛意識が強まるなかで企業間競争も激化し、お客様の品質や安全・安心を求める選別消費の傾向が強まり、自然災害の影響もあり、先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、「おいしさと健康」を追求した高付加価値商品のご提供や、消費者のニーズの多様化への対応をとおして、ブランド価値の向上に努めてまいりました。

食品事業では、新商品やリニューアル商品の積極的な販売を行い、レストラン事業では、グランドメニューの刷新やフェアメニュー展開を行いました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高につきましては、74億65百万円（前年同期比3.0%増）となりました。

利益面では、売上高の増加に伴い売上総利益は44億68百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益は4億81百万円（前年同期比21.9%増）、経常利益は4億79百万円（前年同期比23.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億87百万円（前年同期比42.8%増）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

①食品事業

今期の経営方針である「ドレッシングで新しいマーケットの創出、既存商品の拡販継続」、「パスタ事業強化」などにより、より一層の試食販売の強化や定番商品売場の拡大に努め、売上拡大を図ってまいりました。

ドレッシング事業は、夏場の野菜高騰の影響を受け主力商品の「和風しょうゆドレッシング群（オレンジキャップ、グリーン、ライトタイプ）」が第2四半期（平成30年7月1日～平成30年9月30日）で伸び悩み、終売商品による売上高の減少の影響もありました。しかしながら、新しい商品提案（カテゴリー見直し）として発売しました「レモンとたまねぎ」が売上高の増加に大きく貢献するとともに、第3四半期（平成30年10月1日～平成30年12月31日）では主力商品も持ち直し、当第3四半期連結累計期間におきましては、前年並みの売上高を確保いたしました。

パスタ事業は、夏場の野菜高騰の影響を直接的に受けない商品群であり、前年同期比158.3%と増加しました。この増加要因としましては、リブランディング商品である「おうちパスタ」シリーズがテレビCMに連動した積極的な販促展開等により、前年同期比246.0%と売上を伸ばしたことによるものです。

一方、販売費及び一般管理費では、新商品や育成商品の積極的な導入に伴う販促関連費用や運賃が増加しました。

以上の結果、売上高は53億72百万円（前年同期比2.8%増）、セグメント利益は15億14百万円（前年同期比3.6%減）となりました。

②レストラン事業

当第3四半期連結累計期間は「レストラン事業の黒字化」のもと、売上拡大と利益改善を図ってまいりました。平成30年4月にグランドメニューを改定し、メニュー数は絞り込みましたが、ランチメニューの多様化、サラダメニューの充実や健康メニューの強化を図りました。おいしさにこだわるとともに顧客サービスの向上に努め、さらにサラダに使う生野菜をすべて国産に切り替えました。

毎年ご好評をいただいております「季節ごとのフェアメニュー」は今年も行い、平成30年9月からの「カルボナーラフェア」は例年以上の好評をいただきました。ディナーメニューとしては、「パスタだけではなく、様々な食事シーンの提案」、「種類や量を選べるパスタ」、「デザート、ドリンク強化」を行いメニューの充実を行いました。

売上高は、前期閉店店舗による売上高減少の影響額1億23百万円がありましたが、既存店舗が来客数及び客単価ともに前年同期を上回るとともに、ミスタードーナツ事業の貢献もあり、増収となりました。

利益面では、直営既存店舗売上高の増加に伴い売上総利益が増加し、個店別に細かな原価を含めた経費管理を行ったことと、不採算店の閉店効果もあり、収益が改善でき黒字化が達成できました。

以上の結果、売上高は19億69百万円（前年同期比4.0%増）、セグメント利益は24百万円（前年同期は69百万円のセグメント損失）となりました。

③その他（本社ビル等の賃貸）事業

その他（本社ビル等の賃貸）事業におきましては、売上高は1億23百万円（前年同期比1.7%減）、セグメント利益は66百万円（前年同期比2.0%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ52百万円減少し、89億27百万円となりました。これは主に現金及び預金が77百万円、売掛金が38百万円、原材料及び貯蔵品が29百万円増加する一方、流動資産のその他が1億4百万円、有形固定資産が34百万円、投資その他の資産のその他が66百万円それぞれ減少したことなどによるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ2億22百万円減少し、36億15百万円となりました。これは未払法人税等が1億2百万円増加する一方、短期借入金の返済1億50百万円、長期借入金(1年内含む)が1億27百万円、流動負債のその他が59百万円それぞれ減少したことなどによるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末に比べ1億70百万円増加し、53億11百万円となりました。これは前期決算の剰余金の配当1億21百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益2億87百万円の計上によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の連結業績予想につきましては、平成30年5月11日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

なお、上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,456,338	1,534,002
預け金	68,634	69,589
売掛金	1,471,208	1,509,812
商品及び製品	99,914	85,287
仕掛品	4,087	5,100
原材料及び貯蔵品	112,322	142,021
その他	271,828	167,132
貸倒引当金	△3,943	△3,573
流動資産合計	3,480,391	3,509,373
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,084,435	2,073,117
土地	2,006,202	2,006,202
その他(純額)	649,420	626,511
有形固定資産合計	4,740,058	4,705,831
無形固定資産	32,950	40,356
投資その他の資産		
敷金及び保証金	403,147	392,235
保険積立金	68,764	91,395
その他	275,165	208,663
貸倒引当金	△20,974	△20,698
投資その他の資産合計	726,102	671,596
固定資産合計	5,499,111	5,417,783
資産合計	8,979,502	8,927,157

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	539,233	513,801
短期借入金	1,500,000	1,350,000
1年内返済予定の長期借入金	158,266	124,932
未払金	559,426	578,557
未払法人税等	12,843	115,663
賞与引当金	46,480	25,875
その他	329,976	270,051
流動負債合計	3,146,225	2,978,881
固定負債		
長期借入金	287,632	193,933
役員退職慰労引当金	131,207	152,678
退職給付に係る負債	67,494	76,738
資産除去債務	79,319	73,432
その他	125,878	139,634
固定負債合計	691,531	636,416
負債合計	3,837,756	3,615,297
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,042,389	1,042,389
資本剰余金	1,074,635	1,074,635
利益剰余金	3,301,523	3,467,237
自己株式	△302,893	△302,895
株主資本合計	5,115,655	5,281,368
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28,790	33,425
為替換算調整勘定	△2,699	△2,933
その他の包括利益累計額合計	26,090	30,491
純資産合計	5,141,745	5,311,860
負債純資産合計	8,979,502	8,927,157

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	7,247,027	7,465,073
売上原価	2,881,300	2,996,531
売上総利益	4,365,727	4,468,542
販売費及び一般管理費	3,970,503	3,986,929
営業利益	395,223	481,612
営業外収益		
受取利息	168	247
受取配当金	1,059	1,738
為替差益	46	292
貸倒引当金戻入額	—	629
その他	1,353	2,847
営業外収益合計	2,627	5,755
営業外費用		
支払利息	7,054	6,054
その他	2,064	1,921
営業外費用合計	9,118	7,975
経常利益	388,732	479,391
特別利益		
固定資産売却益	—	5,062
投資有価証券売却益	—	3,504
保険解約返戻金	39,455	—
受取保険金	170,785	—
会員権売却益	—	129
特別利益合計	210,240	8,697
特別損失		
固定資産除却損	2,200	6,839
減損損失	63,185	27,052
投資有価証券売却損	—	3,865
役員退職慰労金	177,366	—
その他	3,238	—
特別損失合計	245,990	37,757
税金等調整前四半期純利益	352,982	450,331
法人税、住民税及び事業税	30,239	106,207
法人税等調整額	121,597	56,912
法人税等合計	151,837	163,119
四半期純利益	201,145	287,211
親会社株主に帰属する四半期純利益	201,145	287,211

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
四半期純利益	201,145	287,211
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,422	4,634
為替換算調整勘定	△3,151	△233
その他の包括利益合計	2,271	4,401
四半期包括利益	203,416	291,613
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	203,416	291,613

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	レストラン 事業	その他 (本社ビル等の 賃貸)事業	計		
売上高						
(1)外部顧客への売上高	5,228,057	1,894,508	124,461	7,247,027	—	7,247,027
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	1,462	1,462	△1,462	—
計	5,228,057	1,894,508	125,923	7,248,489	△1,462	7,247,027
セグメント利益 又は損失(△)	1,570,845	△69,250	68,162	1,569,757	△1,174,533	395,223

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は1,174,533千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては63,185千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	レストラン 事業	その他 (本社ビル等の 賃貸)事業	計		
売上高						
(1)外部顧客への売上高	5,372,295	1,969,409	123,368	7,465,073	—	7,465,073
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	389	389	△389	—
計	5,372,295	1,969,409	123,757	7,465,462	△389	7,465,073
セグメント利益	1,514,865	24,859	66,788	1,606,512	△1,124,900	481,612

(注)1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は1,124,900千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては27,052千円であります。